



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2016年4月29日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、5月13日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

2016 年度第 1 四半期に堅調な業績を上げ、 1 株当たり事業純利益⁽¹⁾が為替レート変動の影響を除いて 5.3%増加

堅調な財務実績を達成し、2016 年度の見通しを確認

- グループ売上高総計⁽²⁾は、0.7%増⁽³⁾(2016 年度の為替レートで 1.9%減)の 85 億 4,300 万ユーロ(VaxServe によるグループ製品以外の売上高⁽⁴⁾8300 万ユーロは、「その他収益」に計上)。ベネズエラを除くと、グループ売上高総計は 3.0%増
- 1 株当たり事業純利益⁽¹⁾は、CER ベースで 5.3%増(調整前 1.5%増)の 1.34 ユーロ
- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2016 年度通年の 1 株当たり事業純利益⁽¹⁾を CER ベースでほぼ前年度並み⁽⁵⁾と予測

サノフィジェンザイムと新興市場が売上高を牽引

- サノフィジェンザイムグローバルビジネスユニット(GBU)の売上高は、多発性硬化症(MS)製品群に牽引され、20.5%増
- サノフィパスツール GBU の売上高は、米国における供給制限のために Pentacel[®]の売上高減少が予想されたにもかかわらず、8.2%増の 6 億 2,500 万ユーロ
- 糖尿病および循環器 GBU の業績は、5.8%減の 14 億 9,900 万ユーロ。新興市場を含め、世界的に見ると、糖尿病製品群の売上高は 4.5%減
- ジェネラルメディスンおよび新興市場 GBU の売上高は、4.3%減(ベネズエラを除くと前年同期並み)の 44 億 9,000 万ユーロ
- 新興市場全体⁽⁶⁾の売上高は、ベネズエラを除き、13.1%増の 23 億 7,300 万ユーロ

イノベーションの次の波を推進

- Dupilumab は、中等症から重症までのアトピー性皮膚炎を対象とする第 III 相試験において良好な結果を示した初の全身療法であり、有望な新しいクラスの免疫療法薬
- Sarilumab は、関節リウマチを対象とする第 III 相単剤療法試験において adalimumab に対して優越性を示す
- 世界保健機関(WHO)の予防接種に関する戦略諮問委員会は、流行国において Dengvaxia[®]の使用を勧告。4 月にはフィリピンにて、初の公的デング熱予防接種プログラムが開始

サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディケールのコメント:

「サノフィ・グループは、第 1 四半期に新興市場の成長に加え、サノフィジェンザイム、サノフィパスツール、およびメリアルに牽引され、堅調な業績を達成しました。同時に、2 つの重要な後期開発段階のパイプライン資産である dupilumab と sarilumab に関して大幅な進展を達成し、新たな免疫製品群の可能性が強調されました。第 2 四半期も、引き続き戦略的優先事項に重点的に取り組むと共に、通年での 1 株当たり事業純利益は CER ベースで概ね一定の見通しです」

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー

www.sanofi.co.jp

	2016年度第1四半期	前年同期比	前年同期比 (CER)
グループ売上高総計 ⁽²⁾	€8,543m	-1.9%	+0.7%
事業純利益 ⁽¹⁾	€1,722m	-0.2%	+3.5%
1株当たり事業純利益⁽¹⁾	€1.34	+1.5%	+5.3%
IFRS 純売上高(為替調整前)	€7,783m	-3.3%	
IFRS 純利益(為替調整前)	€1,087m	+6.3%	
IFRS 1株当たり純利益(為替調整前)	€0.84	+7.7%	

ベーリンガーインゲルハイム社との独占的交渉を発表したことに伴い、また廃止事業に関する IFRS 第 5 号発表要件として、サノフィの動物用医薬品事業(メリアル)は、2016 年度第 1 四半期および前年同期の連結損益計算書において、独立項目(「交換するために保留している動物用医薬品事業による純利益」)として報告されます。取引完了までは、同事業は IFRS 第 8 号に沿った営業部門として存続し、サノフィ・グループの重要な業績指標に含まれるため、サノフィが動物用医薬品事業の業績を管理および報告します。

(1) 当グループの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(定義は付録 8 を参照)。2016 年度第 1 四半期の連結損益計算書については付録 4 に、事業純利益から IFRS 純利益への調整については付録 3 に記載しています。(2) IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、連結損益計算書で単一項目として報告される動物用医薬品事業を含みます(グループ売上高総計の定義については付録 8 を参照)。さらに、「総計」の用語を使用するすべての損益計算書において、サノフィのコメントは動物用医薬品事業を含みます。(3) 特に指定のない限り、純売上高および売上高総計の変動率は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(定義は付録 10 を参照) (4) ワクチンに関する章を参照 (5) 2015 年度の 1 株当たり事業純利益は 5.64 ユーロ (6) 8 ページを参照

2016 年度第 1 四半期のグループ売上高総計

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して⁽⁷⁾算出しています。

第 1 四半期のグループ売上高総計は、2016 年の為替レートで 1.9%減の 85 億 4,300 万ユーロとなりました。為替レート変動により、複数の新興市場通貨における不利な変動が対ユーロでの米ドルと日本円のプラス影響を上回り、2.6 ポイントのマイナス影響を受けました。為替レート変動の影響を排除した場合のグループ売上高総計は、0.7%増でした。

この業績には、2016 年 2 月に為替システムが変更され、特権的な公定歩合⁽⁸⁾でベネズエラ・ボリバルを米ドルに交換できない状態が続いた結果として生じた、ベネズエラ事業の換算に適用された為替レートの変更に関連した為替レートのマイナス影響が含まれています。さらに、サノフィは前年同期に、ベネズエラの現地市場の状況に応じた購入パターンによる、製品需要の大幅拡大の恩恵を受けました。結果として、2016 年度第 1 四半期におけるベネズエラの売上高は、300 万ユーロとなりました(前年同期は 2 億ユーロ)。ベネズエラを除くと、グループ売上高総計は、CER ベースで 3.0%増でした。

グローバルビジネスユニット

以下の表は、グローバルビジネスユニット(GBU)別の売上高をまとめたものであり、2016 年 1 月 1 日付でグループを 5 つの GBU に再編成したことを反映しています。この組織体制では、新興市場のすべての医薬品売上高がジェネラルメディスンおよび新興市場 GBU に計上されます。この新たな報告体系により、サノフィの体制が簡略化され、専門化が進み、成長要因に明確に注力できるようになります。

GBU 別純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)
サノフィジェンザイム(スペシャルティケア) ^(a)	1,169	+20.5%
糖尿病および循環器 ^(a)	1,499	-5.8%
ジェネラルメディスンおよび新興市場 ^(b)	4,490	-4.3% ^(c)
サノフィパスツール(ワクチン)	625	+8.2%
メリアル(動物用医薬品)	760	+17.5%
グループ売上高総計	8,543	+0.7%^(d)

(a) 新興市場の売上高は含まず定義は 8 ページを参照 (b) 糖尿病および循環器とサノフィジェンザイムの新興市場の売上高を含む (c) ベネズエラを除くと CER ベースで 0.3%減 (d) ベネズエラを除くと CER ベースで 0.3%増

グローバル製品群

以下の表に、グローバル製品群別の売上高をまとめました。製品群別の業績は従来の報告手法に関連するものであり、これらは直接比較することができます。付録 1 に、GBU 別および製品群別の調整値をまとめました。

製品群別純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)	先進国市場	前年同期比 (CER)	新興市場	前年同期比 (CER)
スペシャルティケア	1,371	+18.4%	1,169	+20.5%	202	+9.3%
糖尿病および循環器	1,832	-3.5%	1,499	-5.8%	333	+6.7% ^(a)
エスタブリッシュ製品	2,591	-8.2%	1,667	-11.5%	924	-2.1% ^(b)
コンシューマー・ヘルスケア (CHC)	905	-3.1%	594	+1.5%	311	-9.9% ^(c)
ジェネリック医薬品	459	+3.3%	282	+6.0%	177	0.0% ^(d)
ワクチン	625	+8.2%	347	-8.1%	278	+37.0%
動物用医薬品	760	+17.5%	612	+13.0%	148	+37.5%
純売上高総計の合計	8,543	+0.7%^(f)	6,170	-0.7%	2,373	+4.2%^(e)

(a) ベネズエラを除くと 12.3%増 (b) ベネズエラを除くと 8.8%増 (c) ベネズエラを除くと 3.8%増 (d) ベネズエラを除くと 7.1%増 (e) ベネズエラを除くと 13.1%増 (f) ベネズエラを除くと CER ベースで 0.3%増

(7) 財務指標の定義は付録 8 を参照

(8) 2016 年度第 1 四半期に使用した為替レートは、前年同期の 1 米ドル当たり 6.3VEF の特権的な公定 CENCOEX レートに対し、DICOM レート(2016 年 3 月 31 日現在、1 米ドル当たり 273VEF)

医薬品

2016 年度第 1 四半期における医薬品事業の売上高は、糖尿病およびエスタブリッシュ処方製品の売上高減少が多発性硬化症および希少疾患製品群によって部分的に相殺された影響を受け、1.4%減の 71 億 5,800 万ユーロとなりました。ベネズエラを除くと、医薬品事業の売上高は、1.2%増でした。

希少疾患

純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2016 年度第 1 四半期	前年同期比 (CER)
Cerezyme [®] (セレザイム)	182	+3.7% ^(a)
Myozyme [®] (マイオザイム)/Lumizyme [®]	166	+8.3%
Fabrazyme [®] (ファブラザイム)	149	+6.4%
Aldurazyme [®] (アウドラザイム)	48	+4.2%
Cerdelga [®] (サデルガ)	23	+130.0%
希少疾患合計	646	+8.5%^(b)

(a) ベネズエラを除くと 6.5%増 (b) ベネズエラを除くと 9.7%増

第 1 四半期におけるゴーシェ病製品群の売上高は、新興市場での Cerezyme[®](セレザイム) (20.7%増の 5,600 万ユーロ) および Cerdelga[®](サデルガ) (前年同期の 1,000 万ユーロに対し、2,300 万ユーロ) の成長によって、10.1%増の 2 億 500 万ユーロとなりました。ゴーシェ病 1 型患者のための唯一の経口第一選択治療薬である Cerdelga[®](サデルガ)は、重要なマイルストーンを達成し、現在、500 人以上の患者が同製品を使用しています。新興市場における Cerezyme[®](セレザイム)の売上高は、トルコ、中東、ブラジル、およびアルゼンチンの業績の好影響を受けました。第 1 四半期における米国でのゴーシェ病製品群の売上高は、Cerezyme[®](セレザイム)の売上高が減少した(14.0%減の 4,400 万ユーロ)ものの、Cerdelga[®](サデルガ)の売上高(前年同期の 1,000 万ユーロに対し、1,900 万ユーロ)によって十分に補われ、3.3%増の 6,300 万ユーロとなりました。西欧諸国では現在、複数の国(ドイツ、フランス、デンマーク、および北欧諸国)で Cerdelga[®](サデルガ)が販売されており、ゴーシェ病製品群の西欧諸国での売上高は、7.2%増の 7,400 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Fabrazyme[®](ファブラザイム)の売上高は、新規患者の増加を反映し、欧州(15.2%増の 3,700 万ユーロ)および米国(8.5%増の 7,900 万ユーロ)に牽引され、6.4%増の 1 億 4,900 万ユーロとなりました。新興市場の売上高は、ブラジルの公的受注パターンの影響を受け、23.5%減の 1,100 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Myozyme[®](マイオザイム)/Lumizyme[®]の売上高は、米国(12.5%増の 5,500 万ユーロ)と欧州(8.2%増の 7,900 万ユーロ)に牽引され、8.3%増の 1 億 6,600 万ユーロとなりました。新興市場における売上高は、前年同期並みの 2,000 万ユーロでした。

多発性硬化症

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Aubagio®	279	+64.1%
Lemtrada®	88	+134.2%
多発性硬化症合計	367	+76.9%

第1四半期における **Aubagio®** の売上高は、米国 (49.6%増の 1 億 8,800 万ユーロ) および西欧諸国 (105.6%増の 7,400 万ユーロ) に牽引され、64.1%増の 2 億 7,900 万ユーロとなりました。

第1四半期における **Lemtrada®** の売上高は、米国の 4,600 万ユーロ (前年同期は 1,600 万ユーロ) および欧州 (主にドイツと英国) の 3,500 万ユーロ (前年同期は 1,900 万ユーロ) を含め、8,800 万ユーロとなりました。

オンコロジー製品

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Jevtana® (ジェブタナ)	90	+16.9%
Thymoglobulin® (サイモグロブリン)	65	+18.2%
Taxotere® (タキソテール)	46	-11.3%
Eloxatin®	42	-18.5%
Mozobil®	35	+2.9%
Zaltrap®	17	-15.0%
オンコロジー製品合計	358	+1.4%

第1四半期における **オンコロジー製品** の売上高は、Jevtana® (ジェブタナ) および Thymoglobulin® (サイモグロブリン) の売上高が Taxotere® (タキソテール) および Eloxatin® の売上高減少を相殺し、1.4%増の 3 億 5,800 万ユーロとなりました。

第1四半期における **Jevtana®** (ジェブタナ) (一般名: cabazitaxel) の売上高は、米国 (40.7%増の 3,800 万ユーロ) および日本に牽引され、16.9%増の 9,000 万ユーロとなりました。第1四半期における **Thymoglobulin®** (サイモグロブリン) の売上高は、新興市場 (66.7%増の 1,400 万ユーロ) および米国 (12.5%増の 3,700 万ユーロ) の業績を受けて、18.2%増の 6,500 万ユーロとなりました。

第1四半期における **Eloxatin®** の売上高は、最近ジェネリック医薬品との競合の影響を受けたカナダでの売上高減少を反映し、18.5%減の 4,200 万ユーロとなりました。期中における **Taxotere®** (タキソテール) (一般名: ドセタキセル) の売上高は、特に日本でのジェネリック医薬品との競合を反映し、11.3%減の 4,600 万ユーロとなりました。

糖尿病領域

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Lantus® (ランタス)	1,395	-11.0%
Toujeo® (ランタス XR)	103	-
グラルギン製品群合計	1,498	-5.0%
Amaryl® (アマリール)	88	-5.2%
Apidra® (アピドラ)	85	-3.3%
Insuman®	32	0.0%
BGM (血糖測定器)	17	+6.3%
Lyxumia® (リクスマア)	9	+12.5%
糖尿病領域合計	1,734	-4.5%^(a)

(a) ベネズエラを除くと 3.6%減

第1四半期における **糖尿病領域** の売上高は、米国で Lantus® (ランタス) の売上高が減少したことを反映し、4.5%減の 17 億 3,400 万ユーロとなりました。第1四半期における米国での糖尿病領域の売上高は、11.1%減でした。米国以外の糖尿病領域

の売上高は、新興市場(6.4%増(ベネズエラを除くと12%増)の3億3,100万ユーロ)に牽引され、4.5%増の7億8,400万ユーロとなりました。欧州での売上高は、Toujeo[®](ランタス XR)によって牽引され、4.0%増の3億3,800万ユーロとなりました。

第1四半期におけるサノフィの**グラルギン製品群**(Lantus[®](ランタス)および Toujeo[®](ランタス XR))の売上高は、5.0%減の14億9,800万ユーロでした。米国におけるグラルギン製品群の売上高は、10.7%減の9億2,100万ユーロでした。欧州におけるサノフィのグラルギン製品群の売上高は、複数の欧州市場でグラルギン製品のバイオシミラー製剤が発売されたにもかかわらず、4.1%増の2億5,500万ユーロとなりました。

期中における **Lantus[®]**(ランタス)の売上高は、11.0%減の13億9,500万ユーロとなりました。米国では、主に平均卸値の低下を反映し、予想どおり **Lantus[®]**(ランタス)の売上高が17.8%減の8億4,300万ユーロとなりました。第1四半期における欧州での **Lantus[®]**(ランタス)の売上高は、3.7%減の2億3,600万ユーロとなった一方で、新興市場の売上高は、中国と中東に牽引され、6.3%増の2億2,800万ユーロとなりました。

第1四半期における **Toujeo[®]**(ランタス XR)の売上高は、1億300万ユーロであり、そのうち7,800万ユーロが米国、1,900万ユーロが欧州で計上されました。この製品は、世界的な展開が進められており、サノフィは、2016年末までに40カ国以上で **Toujeo[®]**(ランタス XR)が販売されると予測しています。

第1四半期における **Amaryl[®]**(アマリアル)の売上高は、5.2%減の8,800万ユーロであり、そのうち7,100万ユーロ(1.3%減)が新興市場で計上されました。

第1四半期における **Apidra[®]**(アピドラ)の売上高は、米国での売上高減少(28.6%減の2,500万ユーロ)を反映し、3.3%減の8,500万ユーロとなりました。新興市場における **Apidra[®]**(アピドラ)の売上高は、中東での好業績に牽引され、35.3%増の2,000万ユーロとなりました。

循環器

米国では2015年7月、複数の欧州市場では2015年度第4四半期に、**Praluent[®]**(一般名:アリロクマブ、Regeneron社と共同開発)が発売されました。第1四半期における **Praluent[®]**の売上高は、1,200万ユーロであり、そのうち900万ユーロが米国、300万ユーロが欧州で計上され、同製品は英国、ドイツ、および北欧諸国で販売されています。第1四半期の売上高は、現在の保険支払者の制約を反映し、立ち上がりが抑制されています。

第1四半期における **Multaq[®]**の売上高は2.4%増の8,600万ユーロであり、そのうち2.9%増の7,300万ユーロが米国で計上されました。

エスタブリッシュ処方製品

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Lovenox [®]	404	-3.9%
Plavix [®] (プラビックス)	388	-18.2% ^(a)
Renvela[®]/Renage[®] (レナジェル)	234	+2.7%
Aprovel [®] /Avapro [®]	169	-12.9% ^(b)
Synvisc[®] (サイビスク)/Synvisc-One [®]	88	+4.7%
Allegra [®] (アレグラ)	75	-10.0%
Myslee [®] (マイスリー)/Ambien [®] /Stilnox [®]	70	-5.3%
その他	1,163	-8.0% ^(c)
エスタブリッシュ処方製品合計	2,591	-8.2%^(d)

(a) ベネズエラを除くと15.2%減(b) ベネズエラを除くと2.8%減(c) ベネズエラを除くと3.7%減(d) ベネズエラを除くと4.8%減

第1四半期における**エスタブリッシュ処方製品**の売上高は、ベネズエラでの売上高減少と日本での **Plavix[®]**(プラビックス)の売上高減少を反映し、8.2%減の25億9,100万ユーロとなりました。ベネズエラを除くと、エスタブリッシュ処方製品の売上高は、4.8%減でした。新興市場におけるエスタブリッシュ処方製品の売上高は、2.1%減(ベネズエラを除くと8.8%増)の9億2,400万ユーロとなりました。欧州でのエスタブリッシュ処方製品の売上高は5.5%減の9億3,300万ユーロ、米国での売上高は3.0%減の3億7,000万ユーロでした。

第1四半期における **Lovenox[®]**の売上高は、米国におけるジェネリック医薬品との競合の影響を受け、3.9%減の4億400万ユーロとなりました。新興市場での **Lovenox[®]**の売上高は、4.0%減の1億500万ユーロ、欧州での売上高は、前年同期並みの2億6,200万ユーロでした。サノフィは、2016年度に欧州でバイオシミラー製剤との競合が生じると予測しています。

第1四半期における **Plavix[®]** (プラビックス)の売上高は、2015年6月に日本で生じたジェネリック医薬品との競合(日本での売上高は56.1%減の9,200万ユーロ)が中国(24.6%増の1億7,200万ユーロ)での好業績によって部分的に相殺されたことを反映し、18.2%減の3億8,800万ユーロとなりました。

米国における **Renvela[®]/Renagel[®]** (レナジェル)の売上高は、2.7%増の2億3,400万ユーロでした。米国における同製品の売上高は、15.8%増の1億9,400万ユーロとなりました。同製品のジェネリック医薬品は、現在、一部の欧州諸国で販売されており、これを受けて欧州諸国における **Renvela[®]/Renagel[®]** (レナジェル)の売上高は、38.9%減の2,200万ユーロとなりました。サノフィは、2016年に米国でジェネリック医薬品との競合が生じるものと予測しています。

第1四半期における **Aprovel[®]/Avapro[®]**の売上高は、ベネズエラの影響を受け、12.9%減の1億6,900万ユーロとなりました。ベネズエラを除くと、**Aprovel[®]/Avapro[®]**の売上高は、日本でのジェネリック医薬品との競合を反映し、2.8%減となりました。

コンシューマー・ヘルスケア

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Allegra [®] (アレグラ)	140	0.0%
Doliprane [®]	77	-9.4%
Nasacort [®]	45	+7.1%
Enterogermina [®]	42	-22.8%
Essentiale [®]	39	-14.0%
Maalox [®]	24	-7.1%
No Spa [®]	21	+4.5%
Magne B6 [®]	20	+10.0%
Lactacyd [®] (ラクタシード)	19	-15.4%
Dorflex [®]	19	+8.7%
その他の CHC 製品	459	-0.8%
コンシューマー・ヘルスケア合計	905	-3.1%^(a)

(a) ベネズエラを除くと2.4%増

第1四半期における**コンシューマー・ヘルスケア (CHC)**製品の売上高は、ベネズエラの影響を受け、3.1%減の9億500万ユーロとなりました。ベネズエラおよび小型製品の取り止めを除くと、CHC製品の売上高は、オーストラリア、ブラジル、および米国の業績がロシアおよびフランスによって部分的に相殺され、4.1%増となりました。期中におけるCHC製品の米国での売上高は、**Nasacort[®]**、**Allegra[®]** (アレグラ)、および**Gold Bond[®]**に牽引され、7.7%増の2億8,400万ユーロとなりました。新興市場での売上高は、ロシアでの売上高減少を反映し、9.9%減(ベネズエラを除くと3.8%増)の3億1,100万ユーロとなりました。第1四半期におけるその他の国での売上高は、オーストラリアのアレルギーおよびビタミン事業に牽引され、12.7%増の6,800万ユーロでした。第1四半期における欧州での売上高は、2015年度にフランスで**Doliprane[®]**の価格引き下げが行われたことと、前年同期と比較して冬期の気候が穏やかだったことの影響を受け、7.3%減の2億4,200万ユーロとなりました。

ジェネリック医薬品

第1四半期における**ジェネリック医薬品**の売上高は、米国の業績と日本での**Plavix[®]** (プラビックス)のオーソライズドジェネリック医薬品の売上高に牽引され、3.3%増(ベネズエラを除くと6.5%増)の4億5,900万ユーロとなりました。第1四半期における新興市場でのジェネリック医薬品の売上高は、前年同期並み(ベネズエラを除くと7.1%増)の1億7,700万ユーロとなりました。

ワクチン

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌b型(ヒブ)ワクチン (Pentacel[®] 、 Pentaxim[®] 、および Imovax[®] (イモバックス)を含む)	288	+6.0%
髄膜炎・肺炎ワクチン (Menactra[®] (メナクトラ)を含む)	122	+27.8%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	83	+4.9%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン(Adacel[®] を含む)	80	-15.8%

インフルエンザワクチン (Vaxigrip®とFluzone®を含む)	20	+4.5%
Dengvaxia®	19	-
その他のワクチン	13	-31.6%
ワクチン合計(連結売上高)	625	+8.2%*

*VaxServe 売上高の新しい表示に基づく比較(下記参照)

VaxServe の売上高

VaxServe は、ワクチンセグメントの米国事業体です。VaxServe の事業活動には、米国におけるサノフィパストールの重点対象ではないチャンネルでの製品の販売が含まれます。VaxServe は第三者メーカーのワクチンやその他の医薬品も取り扱うことにより、サノフィパストールの製品群を補完しています。従来、VaxServe のすべての売上高は、純売上高の項目に計上されてきました。

より関連性のある情報を掲載するため、2016年1月1日より、VaxServe によるグループ製品以外の売上高は、損益計算書のその他収益の項目に計上されます。それに応じて、前期の比較対象の純売上高がその他収益の項目に再分類されています。

この再分類を反映した 2015 年度の四半期および通年の損益計算書ならびに各 GBU および製品群の地域別売上高は、サノフィのウェブサイトの Investors セクションから入手できます。

VaxServe によるグループ製品以外の売上高は、2015 年度第 1 四半期は 1 億ユーロ、2015 年度通年は 4 億 8,200 万ユーロでした。

ワクチン

第 1 四半期におけるワクチンの連結売上高は、新興市場のポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチン製品群、Menactra®(メナクトラ)、および Dengvaxia®の発売に牽引され、8.2%増の 6 億 2,500 万ユーロとなりました。第 1 四半期におけるワクチンの米国での売上高は、予想された Pentacel®の供給制限と Adacel®の供給時期調整の影響を受け、17.3%減の 2 億 4,400 万ユーロとなりました。第 1 四半期におけるワクチンの新興市場での売上高は、Pentaxim®、Hexaxim®の成長、Dengvaxia®の初回売上高に牽引され、37.0%増となりました。

第 1 四半期におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、6.0%増の 2 億 8,800 万ユーロでした。新興市場における同製品群の売上高は、予想された米国での Pentacel®の売上高減少(米国のポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は 49.2%減の 6,000 万ユーロ)と中国でのポリオワクチンの売上高減少を中国の Pentaxim®と中東およびアフリカの Hexaxim®の成長が十分に補い、51.6%増の 1 億 8,000 万ユーロとなりました。以前に発表したとおり、サノフィパストールは、Pentacel®の生産計画に遅れが生じており、現在の需要すべてを満たすことはできません。供給は、2016 年下半期に改善する見込みです。

世界初の Deng 熱ワクチンである Dengvaxia®は現在、4 カ国(メキシコ、フィリピン、ブラジル、エルサルバドル)で承認されています。第 1 四半期における売上高は 1,900 万ユーロであり、初の公的 Deng 熱予防接種プログラムが開始されたフィリピンで計上されました。最近、予防接種に関する戦略諮問委員会(SAGE)は、世界保健機関(WHO)に対し、Dengvaxia® Deng 熱ワクチンの使用に関する勧告を発行しました。SAGE は、Deng 熱の感染率が高い国は、Deng 熱の疾病負荷を効果的に軽減するため、疾病媒介生物防除を含む総合疾病予防戦略の一環として、Deng 熱ワクチンの導入を検討するべきと助言しています。

インフルエンザワクチンの売上高は、4.5%増の 2,000 万ユーロでした。

第 1 四半期における Menactra®(メナクトラ)の売上高は、米国での米国疾病管理予防センター(CDC)の受注時期の調整が有利となったことを反映し、29.9%増の 1 億 1,100 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における成人用ブースターワクチンの売上高は、米国での Adacel®の供給時期調整を反映し、15.8%減の 8,000 万ユーロとなりました。

第 1 四半期におけるトラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチンの売上高は、4.9%増の 8,300 万ユーロとなりました。

欧州におけるメルク社とのジョイントベンチャーであるサノフィパストール MSD(サノフィに非連結)の第 1 四半期の売上高は、Repevax®(百日咳、ジフテリア、ポリオ、破傷風ブースターワクチン)、Hexyon®(新しい小児用 6 種混合ワクチン)、および Varivax®(水痘ワクチン)に牽引され、18%増の 1 億 6,500 万ユーロとなりました。3 月、サノフィパストールとメルク社は、欧州での共同ワクチン事業であるサノフィパストール MSD を終了し、欧州においてそれぞれ独自の成長戦略を追求する意向であることを発表しました。サノフィパストールとメルク社は、現地の労働法規に従い、規制当局の承認を得ることを条件として、このプロジェクトが 2016 年度末までに完了する見込みとしています。

動物用医薬品⁽⁹⁾

(単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)
コンパニオンアニマル	529	+20.1%
産業動物	231	+12.1%
動物用医薬品合計	760	+17.5%
－ワクチン	212	+18.3%
－フィプロニル製品	181	-4.7%
－アベルメクチン製品	170	+8.9%

第 1 四半期における**動物用医薬品**の売上高は、米国および日本における、メリアルの子会社の犬用ノミ・マダニ駆除薬である NexGard[®] (ネクスガード) の成功に支えられ、17.5%増の 7 億 6,000 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における**コンパニオンアニマル**・セグメントの売上高は、NexGard[™] (ネクスガード) の成功が Frontline[®] (フロントライン) 製品群の減少を十分に補ったことに支えられ、20.1%増の 5 億 2,900 万ユーロとなりました。また、HeartGard[®] (カルドメック) および犬用の歯科衛生チュアブルである Oravet[®] が最近、米国で発売され、コンパニオンアニマル・セグメントの成長に貢献しました。

第 1 四半期における**産業動物**セグメントの売上高は、新興市場における家禽事業の好業績と、主に LongRange[®] の成功に牽引された米国における反芻動物事業を反映し、12.1%増の 2 億 3,100 万ユーロとなりました。

地域別グループ売上高総計

グループ売上高総計(単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)
米国	2,966	+1.5%
新興市場 ^(a)	2,373	+4.2%
－中南米	571	-14.9%
－アジア	833	+15.6%
－アフリカ、中東、および南アジア ^(b)	668	+11.8%
－ユーラシア ^(c)	259	+9.9%
欧州 ^(d)	2,372	+1.7%
その他の国 ^(e)	832	-13.3%
－日本	447	-25.3%
グループ売上高総計	8,543	+0.7%

(a) 米国、カナダ、西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコを除く各国

(b) インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ

(c) ロシア、ウクライナ、ジョージア、ベラルーシ、アルメニア、およびトルコ

(d) 西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)

(e) 日本、韓国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコ

(9) IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、連結損益計算書で単一項目として報告される動物用医薬品事業を含みます。動物用医薬品事業は IFRS 第 8 号に沿った営業部門として存続するため、引き続きサノフィが動物用医薬品事業の業績を管理および報告します。

第 1 四半期における**米国**の売上高総計は、1.5%増の 29 億 6,600 万ユーロでした。多発性硬化症製品群(64.7%増)および動物用医薬品(19.9%増)の好業績が糖尿病製品群の 11.1%減を十分に補いました。

第 1 四半期における**新興市場**の売上高総計は、4.2%増の 23 億 7,300 万ユーロとなりました。ベネズエラを除くと、新興市場の売上高総計は、ワクチン(39.6%増)および動物用医薬品(37.5%増)に牽引され、13.1%増となりました。第 1 四半期におけるアジアの売上高総計は、中国の業績(17.6%増の 5 億 5,400 万ユーロ)に牽引され、15.6%増の 8 億 3,300 万ユーロとなりました。中国の好業績は、主に Plavix[®] (プラビックス)、Lantus[®] (ランタス)、およびワクチンに牽引されました。第 1 四半期における中南米の売上高総計は、アルゼンチンおよびコロンビアの売上高の影響を受け、14.9%減(ベネズエラを除くと 11.0%増)の 5 億 7,100 万ユーロとなりました。ブラジルの売上高総計は、国内の経済状況の影響を受け、1.1%増の 2 億 1,700 万ユーロ

ロとなりました。ユーラシア地域の売上高総計は、トルコに牽引され、9.9%増の2億5,900万ユーロとなりました。ロシアの売上高は、2.3%増の1億1,600万ユーロでした。アフリカおよび中東、および南アジアの売上高総計は、アフリカの好業績(19.2%増)に支えられ、11.8%増の6億6,800万ユーロとなりました。

第1四半期における欧州の売上高総計は、1.7%増の23億7,200万ユーロでした。多発性硬化症(98.2%増)、希少疾患(11.1%)、糖尿病(4.0%増)、およびワクチン(45.5%増)製品群の業績は、エスタブリッシュ処方製品(5.5%減)およびCHC(7.3%減)の売上高減少によって部分的に相殺されました。

第1四半期における日本の売上高総計は、Plavix®(プラビックス)におけるジェネリック医薬品との競合の影響(56.1%減)を受け、25.3%減の4億4,700万ユーロとなりました。

研究開発の最新情報

サノフィの研究開発パイプラインの全容については、付録6をご参照ください。

薬事関連の最新情報

2016年2月9日の2015年度第4四半期業績発表以降、以下の薬事関連の出来事がありました。

- 2月、米国食品医薬品局(FDA)は、2型糖尿病の成人患者の治療薬として現在開発中の**基礎インスリン グラルギンとGLP-1受容体作動薬であるリキシセナチドの固定比率合剤**について、新薬承認申請(NDA)を受理しました。2016年8月に、FDAの決定が得られる見込みです。3月、FDAは、2016年5月25日に、内分泌代謝薬諮問委員会が現在開発中の基礎インスリン グラルギンとリキシセナチドの固定比率合剤および現在開発中のリキシセナチドに関するNDAを審査することを発表しました。3月、サノフィは、この固定比率合剤の申請書類を欧州の保健当局に提出しました。
- 2月、新しい小児用6種混合ワクチンである**PR5i**(ジフテリア・破傷風・百日咳、B型肝炎、ポリオ、ヒブ)がEUでの販売承認を取得しました。

2016年4月末時点の研究開発パイプラインは、46の新規分子化合物(ライフサイクルマネジメントを除く)および臨床開発段階にあるワクチンの候補から構成され、そのうち15は第III相あるいは規制当局に承認申請を行っている段階にあります。

ポートフォリオの最新情報

第III相:

- Praluent®**に関するODYSSEY OUTCOMES試験のデータモニタリング委員会(DMC)は、非盲検試験結果に基づく最初の間解分析を完了しました。DMCは、安全データのレビューに加え、無益性の評価を実施し、変更を加えずに試験を続行することを提言しました。この解析の実際の結果は、今後もサノフィに開示されません。2016年度下半期に一次イベントの目標数の75%が発生した時点で、無益性および圧倒的有効性の第2回中間解析を行います。
- 3月、サノフィとRegeneron社は、**Praluent®**(一般名:アリロクマブ)を評価する第III相ODYSSEY ESCAPE試験の良好な主要結果を発表しました。対象はヘテロ接合体家族性高コレステロール血症(HeFH)の中でも、毎週または2週毎の定期的なアフェレーシス療法が必要な重症患者でした。
- 3月、サノフィとRegeneron社は、**sarilumab**の第III相単剤試験であるSARIL-RA-MONARCH試験において、主要評価項目を達成したことを発表しました。本試験では、投与24週目時点における疾患活動性の高い関節リウマチ(RA)患者の徴候と症状の改善において、**sarilumab**が**adalimumab**(アッヴィ社がヒュミラ®として販売)に対して優越性を示しました。
- 4月、サノフィとRegeneron社は、コントロール不良の中等症および重症アトピー性皮膚炎の成人患者を対象とした治験薬として現在開発中の**dupilumab**を評価する2本の第III相プラセボ対照試験の良好な主要結果を発表しました。LIBERTY AD SOLO 1試験およびSOLO 2試験において、**dupilumab**単剤療法により、全般的な疾患の重症度、皮膚病変、痒痒(かゆみ)、生活の質、およびメンタルヘルスが有意に改善しました。
- 第2世代の髄膜炎菌ACYW結合型ワクチンの**Men Quad TT**が適応年齢を(乳幼児から高齢者まで)拡大し、第III相に入りました。

第II相:

- 3月、遅発型ポンペ病の患者 24 例を対象に現在開発中の新規酵素補充療法剤 **neoGAA** を評価する第 I/II 相臨床試験 (NEO1 試験) のデータを **WORLD Symposium 2016** で発表しました。本試験で得られた安全性と有効性のデータは、今後の開発を推進する裏付けとなる内容です。サノフィは、**neoGAA** の主要な第 III 相試験の患者登録を 2016 年第 2 四半期に開始する予定です。
- 希少眼疾患であるシュタルガルト病において、ABC4A 遺伝子療法の **SAR422459** が第 IIa 相に入りました。

2016 年度第 1 四半期の業績総計

事業純利益⁽¹⁰⁾

2016 年度第 1 四半期におけるサノフィの売上高総計は、1.9%減(為替レート変動の影響を排除した場合は 0.7%増)の 85 億 4,300 万ユーロとなりました。

その他収益総計は、13.9%減の 1 億 5,500 万ユーロとなりました。これには、2016 年 1 月 1 日付の表示変更に伴い、Vaxserve によるグループ製品以外の売上高(17.0%減の 8,300 万ユーロ)が含まれます⁽¹¹⁾。為替レート変動の影響を排除した場合、その他収益総計は 15.0%減でした。

第 1 四半期における売上総利益総計は、1.6%減(為替レート変動の影響を排除した場合は 0.6%増)の 60 億 500 万ユーロとなりました。売上総利益率総計は、為替レート変動の好影響により、前年同期と比較し 0.2 ポイント改善し 70.3%となりました。為替レート変動の影響を排除した場合、多発性硬化症、希少疾患およびワクチン製品群によるプラス影響が、米国の糖尿病領域、ベネズエラ、日本での Plavix[®](プラビックス)のジェネリック医薬品との競合によるマイナス影響を相殺しました。サノフィは、2016 年度の売上総利益総計が 69~70%(為替レート変動の影響を排除した場合)となるものと予想しています。

第 1 四半期における研究開発費総計は、6.6%増の 12 億 7,800 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、Regeneron 社との新たな腫瘍免疫提携の開始や、dupilumab の第 III 相プログラムを含む Regeneron 社と開発中のモノクローナル抗体により、研究開発費総計は 6.5%増となりました。

第 1 四半期における販売費および一般管理費(SG&A)総計は、0.8%減の 24 億 1,800 万ユーロでした。為替レート変動の影響を排除した場合、SG&A 総計は、一般管理費が減少したにもかかわらず、米国での Praluent[®]および Toujeo[®](ランタス XR)の発売コスト、多発性硬化症製品群を支える営業費、メリアル社への支出増を反映して、1.3%増となりました。第 1 四半期の売上高総計に占める SG&A 総計の割合は、前年同期比で 0.3 ポイント増加し、28.3%となりました。

第 1 四半期におけるその他の当期営業収益(費用控除後)総計は、前年同期の 6,700 万ユーロの損失に対し、7,900 万ユーロの収益となりました。2015 年度第 1 四半期のこの項目には、ベネズエラでの業務に関連して計上された 6,600 万ユーロの為替損が含まれています。2016 年度第 1 四半期のベネズエラに関連する為替損は 1 億 200 万ユーロでした。この損失は、2016 年 2 月から開始されたベネズエラの為替制度の一部として実施された最低変動公定為替レート DICOM⁽¹²⁾を適用したことによって生じました。この項目には、契約紛争の結果として 2016 年 2 月にサノフィに交付された仲裁裁定書に従い、1 億 9,200 万ユーロの税引前賠償金も含まれます。

第 1 四半期における関連会社持分利益総計は、前年同期の 3,100 万ユーロに対し、2,300 万ユーロとなりました。関連会社持分利益総計には、2014 年 4 月以降の持分法に基づき計上された Regeneron 社の利益に占める当社の持分、および欧州におけるメルク社とのワクチン関連ジョイントベンチャーであるサノフィパスツール MSD の利益に占める当社の持分が含まれています。

第 1 四半期における非支配株主に帰属する純利益総計は、前年同期の 3,300 万ユーロの損失に対し、2,700 万ユーロの損失となりました。

第 1 四半期における事業営業利益総計は、0.6%減の 23 億 8,400 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、事業営業利益総計は 3.0%増でした。純売上高総計に占める事業営業利益総計の割合は、前年同期比で 0.4 ポイント増加し、27.9%となりました。

第 1 四半期における純財務費用総計は、金融資産の処分に関連する 1,600 万ユーロのキャピタルゲインを含め、前年同期の 9,700 万ユーロに対し、1 億 1,800 万ユーロでした。

第 1 四半期の実効税率(動物用医薬品を含む)は、前年同期の 25.0%に対し、24.0%でした。

第 1 四半期における事業純利益⁽¹⁰⁾は、0.2%減(為替レート変動の影響を排除した場合は 3.5%増)の 17 億 2,200 万ユーロとなりました。第 1 四半期の売上高総計に占める事業純利益の割合は、前年同期比で 0.4 ポイント増加し、20.2%となりました。

2016 年度第 4 四半期の 1 株当たり事業純利益⁽¹⁰⁾(EPS)は、為替調整前では 1.5%増、為替レート変動の影響を排除した場合は 5.3%増の 1.34 ユーロとなりました。2016 年度第 1 四半期の期中平均発行済み株式数は、前年同期の 13 億 840 万株に対し、12 億 8,840 万株となりました。

(10) 財務指標の定義については付録 8、事業純利益から IFRS 純利益への調整については付録 3 をご参照ください。

(11) 6 ページのワクチンに関する章をご参照ください。

2016年度通年の見通し

重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2016年度通年の1株当たり事業純利益をCERベースで概ね一定と予測します。また、2016年3月の平均レートを2016年度の今後3四半期に適用すると、-3%程度の為替レート変動の影響が2016年度通年の1株当たり事業純利益に生じると予測されます。

事業純利益からIFRS純利益への調整(付録3を参照)

2016年度第1四半期の事業純利益とIFRS純利益間の主な調整項目は、以下のとおりです。

- 買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの1億4,000万ユーロ、ジェンザイムの2億1,800万ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:3,400万ユーロ)に関連した償却費、4億4,400万ユーロ。これらの項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- Lemtrada[®]に関連するバイエル社の偶発対価の増加を反映した2,900万ユーロの費用。
- 主に欧州、日本、ブラジルでの変革に関連する5億ユーロの事業再編費用。
- 上記項目から生じた3億3,800万ユーロの税効果(無形固定資産に対する償却費から生じた1億5,600万ユーロおよび事業再編費用に関連した1億7,100万ユーロから構成される)。(付録3を参照)
- 「関連会社持分利益」に含まれる7,000万ユーロの収益(税控除後)は主に、関連会社の資産および負債の公正価値での再評価、ならびにジョイントベンチャーの無形固定資産の償却によって認識された収益。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 動物用医薬品の項目に含まれる、子会社への投資に関連する一時差異は解消されると見込まれることによる繰延税金額の変動から生じる7,100万ユーロの費用。

資本配分

3億2,500万ユーロの資本支出と主に段階的支払いに伴う8億2,200万ユーロの運転資本の増加を考慮し、事業再編費用を除いた2016年度第1四半期の営業活動からの純キャッシュは、29.6%減の8億7,800万ユーロとなりました。この純キャッシュフローは、株式の買い戻し(14億300万ユーロ)、買収・提携(売却を控除)(5億6,900万ユーロ)、および事業再編費用(1億2,100万ユーロ)のための財源に充当しました。その結果、純負債は、2015年12月31日時点の72億5,400万ユーロから2016年3月31日時点の83億7,300万ユーロ(64億8,300万ユーロの現金および現金同等物を控除)へと増加しました。

付録

付録一覧

- 付録 1: 2016 年度第 1 四半期の GBU 別・製品群別・地域別・製品別純売上高およびグループ売上高総計
- 付録 2: 2016 年度第 1 四半期の損益計算書
- 付録 3: 事業純利益から IFRS 純利益への調整
- 付録 4: 2016 年度第 1 四半期の連結損益計算書
- 付録 5: 2016 年の為替感度
- 付録 6: 研究開発パイプライン
- 付録 7: 見込まれる研究開発マイルストーン
- 付録 8: GAAP(一般会計原則)と異なる財務指標の定義

付録1:2016年度第1四半期のGBU別・製品群別・地域別・製品別純売上高およびグループ売上高総計

2016年度第1四半期 (単位:100万ユーロ)	GBU 合計	前年度比 (CER)	前年度比 調整前	欧州	前年度比 (CER)	米国	前年度比 (CER)	その他	前年度比 (CER)	新興市場 ⁽²⁾	前年度比 (CER)	製品群合計	前年度比 (CER)	前年度比 調整前
Aubagio	272	63.6%	64.8%	74	105.6%	188	49.6%	10	100.0%	7	80.0%	279	64.1%	64.1%
Lemtrada	85	129.7%	129.7%	35	84.2%	46	181.3%	4	150.0%	3	300.0%	88	134.2%	131.6%
多発性硬化症合計	357	75.7%	76.7%	109	98.2%	234	64.7%	14	112.5%	10	116.7%	367	76.9%	76.4%
Cerezyme (セラゼイム)	126	-3.8%	-3.8%	71	2.9%	44	-14.0%	11	0.0%	56	20.7%	182	3.7%	-3.7%
Cerdelga (サデルガ)	23	130.0%	130.0%	3	-	19	90.0%	1	-	0	-	23	130.0%	130.0%
Myozyme (マイオザイム)	146	9.8%	9.8%	79	8.2%	55	12.5%	12	8.3%	20	0.0%	166	8.3%	6.4%
Fabrazyme (ファブラザイム)	138	10.5%	11.3%	37	15.2%	79	8.5%	22	10.0%	11	-23.5%	149	6.4%	5.7%
Aldurazyme (アウドラザイム)	35	2.9%	2.9%	19	5.6%	10	11.1%	6	-14.3%	13	7.1%	48	4.2%	0.0%
希少疾患合計	538	8.5%	9.3%	228	11.1%	237	6.9%	73	6.0%	108	8.3%	646	8.5%	5.4%
Taxotere (タキソテール)	16	-30.4%	-30.4%	1	-50.0%	1	-50.0%	14	-26.3%	30	3.3%	46	-11.3%	-13.2%
Jevtana (ジェブタナ)	84	16.9%	18.3%	35	-7.7%	38	40.7%	11	80.0%	6	16.7%	90	16.9%	16.9%
Eloxatine	13	-40.9%	-40.9%	1	0.0%	0	-100.0%	12	-40.0%	29	-3.1%	42	-18.5%	-22.2%
Thymoglobulin (サイモグロブリン)	51	8.7%	10.9%	9	0.0%	37	12.5%	5	0.0%	14	66.7%	65	18.2%	18.2%
Mozobil	33	10.0%	10.0%	10	0.0%	21	11.1%	2	50.0%	2	-50.0%	35	2.9%	2.9%
Zaltrap	16	-15.8%	-15.8%	12	-7.7%	4	-33.3%	0	-	1	0.0%	17	-15.0%	-15.0%
オンコロジー合計	274	0.7%	1.9%	81	-6.7%	143	13.7%	50	-16.1%	84	3.4%	358	1.4%	0.3%
サノフィゼンザイム/スペシャルティケア	1,169	20.5%	21.4%	418	20.2%	614	25.4%	137	3.1%	202	9.3%	1,371	18.4%	16.4%
Lantus (ランタス)	1,167	-14.1%	-13.3%	236	-3.7%	843	-17.8%	88	-2.2%	228	6.3%	1,395	-11.0%	-11.9%
Apidra (アピドラ)	65	-12.2%	-12.2%	31	3.3%	25	-28.6%	9	0.0%	20	35.3%	85	-3.3%	-6.6%
Amaryl (アマリール)	17	-19.0%	-19.0%	8	14.3%	1	0.0%	8	-38.5%	71	-1.3%	88	-5.2%	-9.3%
Insuman	21	-12.5%	-12.5%	21	-8.7%	1	-	-1	-200.0%	11	33.3%	32	0.0%	-3.0%
Toujeo (ランタス XR)	103	1357.1%	1371.4%	19	-	78	1000.0%	6	-	0	-	103	1357.1%	1371.4%
糖尿病合計	1,403	-7.0%	-6.2%	338	4.0%	950	-11.1%	115	0.0%	331	6.4%	1,734	-4.5%	-5.6%
Multaq	84	1.2%	2.4%	11	0.0%	73	2.9%	0	-100.0%	2	100.0%	86	2.4%	3.6%
Praluent	12	-	-	3	-	9	-	0	-	0	-	12	-	-
循環器合計	96	15.9%	17.1%	14	27.3%	82	15.7%	0	-100.0%	2	100.0%	98	16.9%	18.1%
糖尿病および循環器	1,499	-5.8%	-4.9%	352	4.7%	1,032	-9.5%	115	-0.8%	333	6.7%	1,832	-3.5%	-4.6%
Plavix (プラビックス)	388	-18.2%	-19.7%	42	-10.6%	1	-	104	-52.6%	241	12.6%	388	-18.2%	-19.7%
Lovenox	404	-3.9%	-7.8%	262	0.0%	15	-46.2%	22	0.0%	105	-4.0%	404	-3.9%	-7.8%
Renagel (レナジェル)/ Renvela	234	2.7%	3.5%	22	-38.9%	194	15.8%	8	14.3%	10	-38.9%	234	2.7%	3.5%
Aprovel	169	-12.9%	-15.9%	33	-13.2%	4	33.3%	26	-27.0%	106	-9.8%	169	-12.9%	-15.9%
Allegra (アレグラ)	75	-10.0%	-6.3%	2	-33.3%	0	-	73	-9.1%	0	-	75	-10.0%	-6.3%
Myslee / Ambien / Stilnox (マイスリー)	70	-5.3%	-6.7%	11	-8.3%	15	-16.7%	30	-6.5%	14	14.3%	70	-5.3%	-6.7%
Synvisc (サイビスク)/ Synvisc One	88	4.7%	3.5%	8	0.0%	67	0.0%	2	0.0%	11	44.4%	88	4.7%	3.5%
Depakine	102	2.9%	-1.9%	40	-2.4%	0	-	4	25.0%	58	5.1%	102	2.9%	-1.9%
Tritace	62	-14.7%	-17.3%	40	-4.8%	0	-	0	-100.0%	22	-25.0%	62	-14.7%	-17.3%
Lasix (ラシックス)	34	-16.7%	-19.0%	19	0.0%	0	-100.0%	2	-87.5%	13	7.1%	34	-16.7%	-19.0%
Targocid (タゴシッド)	37	-2.5%	-7.5%	20	0.0%	0	-	2	-50.0%	15	0.0%	37	-2.5%	-7.5%
Orudis	26	-40.0%	-48.0%	4	-20.0%	0	-	2	-	20	-46.7%	26	-40.0%	-48.0%
Cordarone (アンカロン)	31	-5.9%	-8.8%	7	-12.5%	0	-	7	-12.5%	17	0.0%	31	-5.9%	-8.8%
Xatral	27	12.0%	8.0%	9	0.0%	0	-	1	0.0%	17	21.4%	27	12.0%	8.0%
その他の処方薬	844	-7.4%	-10.4%	414	-5.5%	74	-24.7%	81	-13.8%	275	-3.2%	844	-7.4%	-10.4%
エスタブリッシュ処方製品合計	2,591	-8.2%	-10.7%	933	-5.5%	370	-3.0%	364	-29.4%	924	-2.1%	2,591	-8.2%	-10.7%
コンシューマーヘルスケア	905	-3.1%	-7.6%	242	-7.3%	284	7.7%	68	12.7%	311	-9.9%	905	-3.1%	-7.6%
ジェネリック医薬品	459	3.3%	-4.0%	207	2.5%	49	19.5%	26	13.6%	177	0.0%	459	3.3%	-4.0%
新興市場サノフィゼンザイム合計	202	9.3%	-6.0%							202	9.3%			
新興市場糖尿病および循環器合計	333	6.7%	-2.9%							333	6.7%			
ジェネラルメディスンおよび新興市場	4,490	-4.3%	-8.6%	1,382	-4.7%	703	2.5%	458	-23.3%	1,947	-0.8%			
医薬品合計	7,158	-1.4%	-4.0%	2,152	0.8%	2,349	1.5%	710	-16.1%	1,947	-0.8%	7,158	-1.4%	-4.0%
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)	288	6.0%	2.1%	23	76.9%	60	-49.2%	25	0.0%	180	51.6%	288	6.0%	2.1%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン	80	-15.8%	-15.8%	14	75.0%	51	-30.1%	7	20.0%	8	0.0%	80	-15.8%	-15.8%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎	122	27.8%	25.8%	0	-100.0%	99	33.8%	3	100.0%	20	5.0%	122	27.8%	25.8%
インフルエンザワクチン	20	4.5%	-9.1%	1	-	3	-250.0%	5	50.0%	11	-35.0%	20	4.5%	-9.1%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	83	4.9%	1.2%	8	-27.3%	24	21.1%	11	-6.7%	40	10.8%	83	4.9%	1.2%
デング熱	19	-	-	0	-	0	-	0	-	19	-	19	-	-
ワクチン	625	8.2%	4.7%	48	45.5%	244	-17.3%	55	9.4%	278	37.0%	625	8.2%	4.7%
グループ合計	7,783	-0.7%	-3.3%	2,200	1.5%	2,593	-0.7%	765	-14.6%	2,225	2.6%	7,783	-0.7%	-3.3%
動物用医薬品	760	17.5%	15.5%	172	3.6%	373	19.9%	67	4.6%	148	37.5%	760	17.5%	15.5%
グループ売上高総計	8,543	0.7%	-1.9%	2,372	1.7%	2,966	1.5%	832	-13.3%	2,373	4.2%	8,543	0.7%	-1.9%

(1) IFRS 第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、連結損益計算書の単一項目で報告される動物用医薬品事業を含む(グループ売上高総計の定義については、付録8を参照)(2) 定義については、7 ページを参照

付録2:2016年度第1四半期の事業損益計算書

2016年度 第1四半期	医薬品			ワクチン			その他		グループ合計		動物用医薬品 ⁽¹⁾			合計:総計 ⁽⁴⁾				
	(単位:100万ユーロ)	Q1 2016	Q1 2015	前年度 比	Q1 2016	Q1 2015 ⁽³⁾	前年度 比	Q1 2016	Q1 2015	Q1 2016	Q1 2015	前年度 比	Q1 2016	Q1 2015	前年度 比			
純売上高	7,158	7,455	(4.0%)	625	597	4.7%			7,783	8,052	760	658	15.5%	8,543	8,710	(1.9%)		
その他収益	54	62	(12.9%)	91	106	(14.2%)			145	168	10	12	(16.7%)	155	180	(13.9%)		
売上原価	(2,097)	(2,190)	(4.2%)	(350)	(376)	(6.9%)			(2,447)	(2,566)	(246)	(220)	11.8%	(2,693)	(2,786)	(3.3%)		
純売上高に占める割合	(29.3%)	(29.4%)		(56.0%)	(63.0%)				(31.4%)	(31.9%)	(32.4%)	(33.4%)		(31.5%)	(32.0%)			
売上総利益	5,115	5,327	(4.0%)	366	327	11.9%			5,481	5,654	524	450	16.4%	6,005	6,104	(1.6%)		
純売上高に占める割合	71.5%	71.5%		58.6%	54.8%				70.4%	70.2%	68.9%	68.4%		70.3%	70.1%			
研究開発費	(1,108)	(1,039)	6.6%	(127)	(120)	5.8%			(1,235)	(1,159)	(43)	(40)	7.5%	(1,278)	(1,199)	6.6%		
純売上高に占める割合	(15.5%)	(13.9%)		(20.3%)	(20.1%)				(15.9%)	(14.4%)	(5.7%)	(6.1%)		(15.0%)	(13.8%)			
販売費および一般管理費	(2,046)	(2,094)	(2.3%)	(166)	(156)	6.4%			(2,212)	(2,250)	(206)	(188)	9.6%	(2,418)	(2,438)	(0.8%)		
純売上高に占める割合	(28.6%)	(28.1%)		(26.6%)	(26.1%)				(28.4%)	(27.9%)	(27.1%)	(28.6%)		(28.3%)	(28.0%)			
その他の当期営業損益	107	(28)			1		(14)	(40)	93	(67)	(14)			79	(67)			
関連会社*および合弁会社持分利益	16	32		7	(1)				23	31				23	31			
非支配株主に帰属する純利益	(27)	(33)							(27)	(33)				(27)	(33)			
事業営業利益	2,057	2,165	(5.0%)	80	51	56.9%	(14)	(40)	2,123	2,176	261	222	17.6%	2,384	2,398	(0.6%)		
純売上高に占める割合	28.7%	29.0%		12.8%	8.5%				27.3%	27.0%	34.3%	33.7%		27.9%	27.5%			
														(118)	(97)			
														(544)	(575)			
														24.0%	25.0%			
														事業純利益		1,722	1,726	(0.2%)
														純売上高に占める割合		20.2%	19.8%	
														1株当たり事業純利益*** (単位:ユーロ)		1.34	1.32	1.5%

* 税控除後

** 税引前事業利益、関連会社、非支配持分に基つて算出

*** 2016年度第1四半期の12億8,840万株、前年同期の13億840万株という期中平均発行済み株式数に基づく

- (1) IFRS第5号の「廃止事業」の表示要件に従い、動物用医薬品事業の純利益は、2015年度まで「交換するために保留している動物用医薬品事業による純利益」の連結損益計算書の単一項目として報告される。取引が完了するまで、動物用医薬品はグループの事業セグメントとして残存する
- (2) IFRS第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、連結損益計算書で単一項目で別途報告される動物用医薬品事業を含む。さらに、「総計」の用語を使用するすべての損益計算書において、サノフィのコメントは動物用医薬品事業を含む
- (3) 会計表示の変更に従い、Vaxserveによるグループ製品以外の売上高は、2016年度以降の「その他収益」で報告される。前期の純売上高およびその他収益は、それに応じて修正される
- (4) 動物用医薬品事業を含む総計

付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整

(単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期 ⁽¹⁾	2015 年度 第 1 四半期 ⁽¹⁾	前年度比
事業純利益	1,722	1,726	(0.2%)
無形固定資産の償却 ⁽²⁾	(444)	(499)	
無形固定資産の減損	-	(27)	
偶発対価債務の公正価値での再評価	(29)	1	
事業再編費用	(500)	(353)	
上記項目の税効果:	338	312	
無形固定資産の償却	156	174	
無形固定資産の減損	-	10	
偶発対価債務の公正価値での再評価	11	7	
事業再編費用	171	121	
上記項目中、非支配株主に帰属する利益	1	1	
関連会社と合併会社の事業再編費用、関連会社と合併会社に対する買収の影響から生じる費用	70	(62)	
動物用医薬品項目 ⁽³⁾	(71)	(76)	
当社株主に帰属する純利益	1,087	1,023	6.3%
連結 1 株当たり利益⁽⁴⁾(単位:ユーロ)	0.84	0.78	

(1) 動物用医薬品事業の項目は、IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、別途報告される

(2) 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2016 年度第 1 四半期は 4 億 1,000 万ユーロ、前年同期は 4 億 7,100 万ユーロとなった

(3) 以下の項目が含まれる:IFRS第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)の適用開始に伴う有形固定資産の減価償却および減損の中止の影響、IFRS第5号の適用までの無形固定資産の償却および減損の影響、売却の結果として生じる費用、それらの項目の税効果

(4) 2016年度第1四半期の12億8,840万株、前年同期の13億840万株という期中平均発行済み株式数に基づく

付録 4:2016 年度第 1 四半期の連結損益計算書

(単位:100 万ユーロ)	2016 年度 第 1 四半期 (1)	2015 年度 第 1 四半期 (1)(2)
純売上高	7,783	8,052
その他収益	145	168
売上原価	(2,447)	(2,566)
売上総利益	5,481	5,654
研究開発費	(1,235)	(1,159)
販売費および一般管理費	(2,212)	(2,250)
その他の当期営業収益	217	34
その他の当期営業費用	(124)	(101)
無形固定資産の償却	(444)	(499)
無形固定資産の減損	-	(27)
偶発対価債務の公正価値での再評価	(29)	1
事業再編費用	(500)	(353)
営業利益	1,154	1,300
財務費用	(129)	(131)
財務収益	12	36
関連会社および合弁会社持分利益を除く税引前利益	1,037	1,205
法人税	(117)	(184)
関連会社および合弁会社持分利益	93	(31)
交換するために保留している動物用医薬品事業を除く純利益	1,013	990
交換するために保留している動物用医薬品事業による純利益	100	65
純利益	1,113	1,055
非支配株主に帰属する純利益	26	32
当社株主に帰属する純利益	1,087	1,023
期中平均発行済み株式数(単位:100 万株)	1,288.4	1,308.4
交換するために保留している動物用医薬品事業を除く 1 株当たり純利益(単位:ユーロ)	0.77	0.73
1 株当たり純利益(単位:ユーロ)	0.84	0.78

(1) IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、連結損益計算書で単一項目で別途報告される動物用医薬品事業を含む

(2) 会計表示の変更に従い、Vaxserve によるグループ製品以外の売上高は、2016 年度以降の「その他収益」で報告される。前期の純売上高およびその他収益は、それに応じて修正される

付録 5: 2016 年の為替感度

2016 年の 1 株当たり事業純利益の為替感度

通貨	変動	事業純利益の為替感度
米ドル	-0.05 ドル/ユーロ	+0.13 ユーロ
日本円	+5 円/ユーロ	-0.02 ユーロ
中国元	+0.2 元/ユーロ	-0.02 ユーロ
ブラジル・リアル	+0.4 レアル/ユーロ	-0.01 ユーロ
ロシア・ルーブル	+10 ルーブル/ユーロ	-0.04 ユーロ

2016 年度第 1 四半期および 2015 年度通年に対する通貨変動リスク

通貨	2016 年度第 1 四半期	2015 年度通年*
米ドル	35.9%	36.3%
ユーロ	24.9%	23.1%
中国元	5.9%	5.7%
日本円	5.0%	5.4%
ブラジル・リアル	2.5%	2.8%
英ポンド	1.9%	2.1%
カナダ・ドル	1.4%	1.5%
ロシア・ルーブル	1.3%	1.6%
オーストラリア・ドル	1.5%	1.4%
メキシコ・ペソ	1.2%	1.8%
その他	18.5%	18.3%

*VaxServe を除く

平均為替レート

	2015 年度 第 1 四半期	2016 年度 第 1 四半期	前年度比
ユーロ/ドル	1.13	1.10	-2.2%
ユーロ/円	134.19	127.02	-5.3%
ユーロ/元	7.03	7.21	+2.6%
ユーロ/リアル	3.22	4.31	+33.7%
ユーロ/ルーブル	71.09	82.47	+16.0%

付録 6: 研究開発パイプライン

申請中

N	<p>リキシセナチド GLP-1 受容体作動薬 2 型糖尿病、米国</p>	<p>Dengvaxia^{®(1)} 軽度から重度までの デング熱に対するワクチン</p>
N	<p>LixiLan インスリングルルギン + リキシセナチド 固定比率合剤/2 型糖尿病、米国、EU</p>	<p>PR5i DTP-HepB-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、 B 型肝炎、ポリオ、ヒブ) 小児用 6 種混合ワクチン、米国</p>
N	<p>sarilumab 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ、米国</p>	<p>VaxiGrip[®] QIV IM 4 価不活化 インフルエンザワクチン (3 歳以上)</p>

第 III 相

N	<p>SAR342434 インスリン リスプロ 1 型・2 型糖尿病</p>	N	<p>patisiran (ALN-TTR02) TTR 標的 siRNA 阻害剤 家族性アミロイドポリニューロパチー</p>	<p>クロストリジウム・ディフィシル トキシイドワクチン</p>
N	<p>SAR439954 (sotagliflozin) 経口 SGLT-1 および SGLT-2 阻害剤 1 型糖尿病</p>	N	<p>revusiran (ALN-TTRsc) TTR 標的 siRNA 阻害剤 家族性アミロイド心筋症</p>	<p>VaxiGrip[®] QIV IM 4 価不活化 インフルエンザワクチン (6~35 カ月)</p>
	<p>sarilumab 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ、EU</p>		<p>ジェブタナ[®] (一般名: カバジタキセル) 転移性前立腺がん (一次療法)</p>	<p>小児用 5 種混合ワクチン DTP-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、ポリオ、ヒブ) 日本</p>
N	<p>dupilumab 抗 IL-4Rα モノクローナル抗体 アトピー性皮膚炎、喘息</p>			<p>Men Quad TT 第 2 世代の髄膜炎菌 ACYW 結合型ワクチン</p>

N: 新規分子化合物

(1) ブラジル、メキシコ、フィリピン、エルサルバドルで承認

第II相

N	<p>dupilumab 抗 IL-4Rα モノクローナル抗体 鼻ポリープ 好酸球性食道炎</p>	N	<p>sarilumab 抗 IL-6R モノクローナル抗体 ブドウ膜炎</p>	N	<p>併用療法 ferroquine / OZ439 抗マalaria薬</p>
N	<p>SAR156597 IL4/IL13 二重特異性モノクローナル抗体 特発性肺線維症</p>	N	<p>isatuximab 抗 CD38 モノクローナル抗体 多発性骨髄腫</p>		<p>狂犬病 VRVg 精製ペロ細胞狂犬病ワクチン</p>
N	<p>SAR100842 LPA1 受容体拮抗剤 強皮症</p>	N	<p>olipudase alfa rhASM ニーマンピック病 B 型</p>		<p>結核 遺伝子組換えサブユニットワクチン</p>
	<p>SAR439954 (sotagliflozin) 経口 SGLT-1 および SGLT-2 阻害剤 2 型糖尿病</p>	N	<p>GZ402671 経口グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ファブリー病</p>		<p>Fluzone® QIV HD 4 価不活化 インフルエンザワクチン—高用量</p>
N	<p>SAR439977 (efpeglenatide) 長時間作用型 GLP-1 受容体作動薬 2 型糖尿病</p>	N	<p>SAR422459 ABCA4 遺伝子療法 シユタルガルト病</p>		

第I相

N	<p>GZ402668 GLD52 (抗 CD52 モノクローナル抗体) 再発性多発性硬化症</p>	N	<p>SAR566658 メイタンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 固形がん</p>	N	<p>SAR228810 抗プロトフィブリル AB モノクローナル抗体 アルツハイマー病</p>
N	<p>GZ389988 TRKA 拮抗剤 変形性関節炎</p>	N	<p>SAR408701 抗 CEACAM5 ADC 固形がん</p>	N	<p>SAR439152 ミオシン阻害剤 肥大型心筋症</p>
N	<p>SAR425899 GLP-1R/GCGR デュアル作動薬 2 型糖尿病</p>	N	<p>SAR439684 PD-1 阻害剤 がん</p>	N	<p>SAR407899 rho キナーゼ 微小血管性狭心症</p>
N	<p>SAR438335 GLP-1R/GIPR デュアル作動薬 2 型糖尿病</p>	N	<p>SAR428926 LAMP-1 阻害剤 がん</p>	N	<p>SAR366234 EP2 受容体作動薬 眼圧亢進</p>
N	<p>SAR438544 安定化グルカゴンアナログ 糖尿病</p>	N	<p>GZ402666 neo GAA ボンベ病</p>		<p>肺炎レンサ球菌 髄膜炎・肺炎ワクチン</p>
N	<p>SAR440067 (LAPS インスリン 115) 長時間持続型インスリンアナログ 2 型糖尿病</p>	N	<p>SAR339375 抗 miR21 RNA アルポート症候群</p>		<p>単純ヘルペスウイルス 2 型 HSV-2 ワクチン</p>
		N	<p>fitusiran (ALN-AT3) アンチトロンビン標的 siRNA 阻害剤 血友病</p>		
		N	<p>UshStat® ミオシン 7A 遺伝子療法 アッシャー症候群 1B</p>		

付録 7: 見込まれる研究開発マイルストーン

製品	イベント	時期
Dengvaxia®	流行国での規制当局の決定(見込み)	2016年度
Lixisenatide および LixiLan	FDA 諮問委員会	2016年 5月25日
Men Quad TT	第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 2 四半期
インスリン リスプロ	糖尿病における第 III 相 SORELLA 試験の重要な結果(見込み)	2016年度 第 2 四半期
dupilumab	アトピー性皮膚炎における第 III 相 CHRONOS 試験の中間結果(見込み)	2016年度 第 2 四半期
NeoGAA (GZ402666)	ポンペ病における第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 2 四半期
olipudase alfa	ニーマンピック病 B 型における第 II/III 相ピボタル試験の開始(見込み)	2016年度 第 2 四半期
SAR439684 (PD-1 阻害剤)	皮膚扁平上皮がんにおける第 II 相ピボタル試験の開始(見込み)	2016年度 第 2 四半期
sarilumab	関節リウマチにおける EU での薬事承認申請(見込み)	2016年度 第 3 四半期
リキシセナチド	2 型糖尿病における米国の規制当局の決定(見込み)	2016年度 第 3 四半期
LixiLan	2 型糖尿病における米国の規制当局の決定(見込み)	2016年度 第 3 四半期
dupilumab	アトピー性皮膚炎における米国での薬事承認申請(見込み)	2016年度 第 3 四半期
fitusiran	血友病における第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 3 四半期
Praluent®	ODYSSEY OUTCOMES 第 2 回中間解析 ⁽¹⁾ の結果(見込み)	2016年度 下半期
sarilumab	関節リウマチにおける米国の規制当局の決定(見込み)	2016年度 第 4 四半期
VaxiGrip® QIV IM(3 歳以上)	EU の規制当局の決定(見込み)	2016年度 第 4 四半期
sotagliflozin	2 型糖尿病における第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 4 四半期
efpeglenatide	2 型糖尿病における第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 4 四半期
isatuximab (抗 CD38)	多発性骨髄腫における第 III 相試験の開始(見込み)	2016年度 第 4 四半期

(1) イベントの約 50%が発生した時点で無益性の中間解析を行い、2016 年度下半期に一次イベントの目標数の 75%が発生した時点で無益性および圧倒的有効性の第 2 回中間解析を行う

付録 8:GAAP(一般会計原則)と異なる財務指標の定義

総計

サノフィのコメントは、「総計」という表現を使用して、損益計算書の各項目に動物用医薬品事業を含んでいます。

グループ売上高総計(為替レート変動の影響を除く)

「グループ売上高総計(為替レート変動の影響を除く)」での変化に言及する場合は、為替レート変動の影響が排除されていることを意味します。

為替レートの影響は、前期に使用された為替レートで当期の売上高総計を再計算することによって、排除されます。

2016年度第1四半期の純売上高からグループ売上高総計(為替レート変動の影響を除く)への調整

(単位:100万ユーロ)	2016年度 第1四半期
純売上高	7,783
動物用医薬品純売上高	760
グループ売上高総計	8,543
為替レートの影響	+228
グループ売上高総計(為替レート変動の影響を除く)	8,771

事業純利益

サノフィは、GAAP(一般会計原則)と異なる主要指標を発表します。

事業純利益は、当社株主に帰属する純利益から以下の項目を除外したものと定義されます。

- 無形固定資産の償却
- 無形固定資産の減損
- 合併に関連する偶発対価債務の公正価値での再評価
- 買収に関連するその他の影響(関連会社に対する買収の影響など)
- 事業再編費用⁽¹⁾
- その他の損益(非流動資産の売却損益⁽¹⁾を含む)
- 訴訟に関わる費用または引当金⁽¹⁾
- 上記の各項目に対する税効果と主要な税務訴訟の影響
- 当社株主に支払った配当に対する課税(3%)
- 事業純利益のうちの動物用医薬品項目⁽²⁾
- 上記項目に関連する非支配株主に帰属する純利益

(1) 連結損益計算書の Note B.20.で定義されているとおり、**再編費用と売却・訴訟に関わる損益**の勘定科目で報告されます。

(2) IFRS 第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)の適用開始に伴う有形固定資産の減価償却および減損中止の影響、IFRS 第5号の適用までの無形固定資産の償却および減損の影響、売却の結果として増加する費用、これらの項目の税効果

サノフィについて

サノフィは、グローバルヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。5つのグローバルビジネスユニット(糖尿病と循環器領域、ジェネラルメディシンと新興市場、サノフィジェンザイム、サノフィパストツール、メリアル)で組織され、パリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。

今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関するFDAやEMAなどの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合

に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2015 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。